



体力増強

澤田 廉士*

編集委員長の澤田です。世の中不景気であるものの、業種や会社によってはむしろ業績が伸びているところもあるようです。不景気のときが、かえって会社の体力増強がやりやすいという会社マネージャに先日出会いました。聞くところによると、日本の実装の技術レベルは世界トップであるとのことでもあります。しかし、最近はその位置が怪しくなりつつあるとのこと。こういうときにこそやるべきことは何か自問するとともに、会誌読者の意見も伺ってみたいと思います。会誌が指南役を担えるようになれば最高だと思いますし、会誌の記事が実装分野の活発化に寄与できるようになることができれば編集委員長としては最高の喜びであります。

エレクトロニクス実装学会は、他の学会と比べると、1) 多くの研究会がある、2) 企業の読者が多い、3) 投稿論文が少ない、4) 電子化の遅れ、5) 数少ないジャンル、が特徴といえます。今後は、これらの学会がもつ特徴を活かした活動と学会がもつ課題の解決に向けて編集委員として励んでいきたいと思います。多くの研究会の活動を反映させて記事を増やす、他の学会では稀な企業における実装関連分野の研究開発の紹介、講演大会との連携や読者同士の交流ができるような場を作ることによる論文や記事の投稿件数の増加を図りたいと思います。また、読者の声を聞くコーナーの増設、学会の状況をお知らせするコーナーの設置、査読・投稿システムや会誌のアーカイブの電子化に全力を注ぎます。

何か選挙のマニフェストのような巻頭言になってしまいましたが、学会としても会社同様、体力をつけるにも新分野への挑戦にとっても良いチャンスだと前向きに考えたいと思います。読者の皆さん、どうしたらより実装分野が活性化できるか是非ご意見をお寄せください。皆さんの意見を載せるコーナーを設けますのでよろしくお願いします。